

民医連歯科、南三陸町へ入る

4月3日、民医連歯科の全国支援者隊が、南三陸町の避難所訪問を行いました。同町は町民の半数以上が避難生活をし、町そのものが壊滅状態になっている所です。古川民主病院歯科を拠点にして京都（あすかい歯科）と福井（たけふ歯科・光陽生協歯科）の支援隊と松島歯科、古川歯科のメンバー総勢14名で訪問しました。

この日は、被災者の方々が宮城県内4市町へ集団避難する日でもあり、仮町役場・災害対策本部が設置されている「ペイサイドアリーナ」は送迎バスやマスコミなど多くの関係者がつめかけていました。

民医連歯科支援隊は志津川小学校、中学校の避難所を訪問しました。歯科相談の多くは津波で入れ歯を流されたので新しい入れ歯を作つて欲しいとの相談でした。入れ歯作成までに3～4回の診療を要するためペイサイドアリーナに常設している県歯科医師会の仮設歯科診療所と巡回診療へ申し送ることとしましたが、1回だけの訪問では限界を感じる悔しい思いをしました。

京都のチームは入れ歯を支える銀歯が取れて入れ歯があわなくなった人の増歯とクラスプ修理を行いました。福井チームは虫歯の子どもさんの治療を行い、移動予定の避難所への紹介状を作成し申し送りました。

被災者の方は高齢の方が多く、入れ歯洗浄剤や保管するケースが欲しいとの要求が出されていました。

避難所は電気・水道は未だ復旧しておらず、自家発電とペットボトルやタンクによる水の使用でした。医療班の方からは感染症対策で衛生面への気配りが重要だが、電気と水道の復旧を早くしてほしいと話しています。



志津川中学校から志津川湾を撮影（矢印が公立志津川病院）



増歯の作業中



完成後の装着様子